

=====

Ocean Policy Update
＜日本海洋政策学会メールニュース＞

No.32 (2016年11月7日)

【本学会からのお知らせ】

- 第8回年次大会 12/3(土)プログラム紹介、参加申し込み受け付け中！
- 小宮山前会長の海洋立国推進功労者表彰受賞祝賀会を10/24(月)に開催
- 10/4「海洋・宇宙連携の今後の在り方」特別セミナー、盛会裡に開催
- 本学会の古庄幸一監事、秋の叙勲で瑞宝重光章を受章

【一般情報】

- 第31回参与会議、10/26(水)に開催
- 10/27、IWC総会；日本の調査捕鯨制限へ決議採択、法的拘束力なし
- 世界最大の海洋保護区、南極ロス海に設置へ

=====

【本学会からのお知らせ】

○12/3(土)開催第8回年次大会プログラム、参加申し込み受け付け中！

本学会の今年の年次大会プログラムが決まりましたので、取り急ぎお知らせいたします。会員の皆様の積極的なご出席をお願いします。11/25(金)まで申し込み受け付けております。なお、当日会場でも参加受け付けいたします。詳しくは本学会ホームページを参照ください。
(<http://oceanpolicy.jp/>)

- ・統一テーマ：『海洋立国日本の将来－第3期海洋基本計画の策定に向けて－』
 - ・会場：早稲田大学早稲田キャンパス 小野記念講堂 (27号館地下2階)
 - ・プログラム：以下のとおり。
- 9:30 開会挨拶 日本海洋政策学会会長 奥脇 直也
- 9:35 基調講演
『わが国 海洋政策の展望と課題』衆議院議員 小野寺 五典
『新たな海洋立国と第3期海洋基本計画の課題』日本海洋政策学会副会長 寺島 紘士
- 10:30 研究発表(その1:3件) 座長 牧野光琢
(発表者所属、共同発表者等の詳細は上記URLを参照。以下、同)
『SIMSEAの科学的基礎の確立に向けた戦略的取り組み』 森岡 優志
『OCEANOGRAPHIC INFORMATION AS A CO-BENEFIT OF OCEAN RENEWABLE ENERGY PROJECTS - A CASE OF JAPAN'S OCEAN CURRENT POWER PROJECT』 A. H. T. Shyam Kularathna
『市場メカニズムを通じた環境・資源保全措置と世界貿易機関(WTO)の下での規律 - 水産エコラベルに焦点を当てて』 村上 悠平
- 11:45 第8回 定例総会
- 12:20 昼食
- 12:50~13:30 ポスターセッション [別掲] (場所:発表会場前ロビー)
- 13:40 研究発表(その2:4件) 座長 高木 健
『南シナ海仲裁判断の意義とその海洋政策的示唆－海洋環境及び航行安全等に関する裁

定後の関係諸国における議論を参考として一』 武藤 正紀

『海底鉱物資源開発に伴う「海洋環境の汚染」に対する沿岸国の執行措置に関する一考察
—大陸棚での実施に伴って発生する騒音への対応を中心に—』 下山 憲二

『生物多様性に配慮した持続可能な資源探査・開発活動のための国際標準になりうる海洋
環境影響評価に関する提案 —国連における国家管轄権外の生物多様性（BBNJ）に
対する議論の動向をふまえて—』 柴田 由紀枝

『海洋資源開発における社会経済影響の課題の検討』 川辺 みどり

15:15 休憩 (20分)

15:35 パネル・ディスカッション

・テーマ 【海のフロンティアを拓く —日本型海域管理の将来像—】

・モデレータ：柴山 知也（早稲田大学）

・パネリスト：岡本 信行（JOGMEC）、加々美 康彦（中部大学）、兼原 敦子（上智大学）、
森下 丈二（東京海洋大学）

17:35 閉会挨拶 日本海洋政策学会副会長 來生 新

18:00 交流・懇親会 … 大隈会館 1階 「楠亭」（会費制）

◎ポスター発表 (9件)

洋上風力発電と地域の共発展寄附講座の研究活動（永井紀彦）／ドイツにおける洋上風力
基地港湾整備の現状（竹内彩乃）／海洋教育における“海のプロフェッショナル体験”の有
効性（林未来）／職業体験前後における連想ネットワーク法の活用可能性（杉野弘明）／
小・中学生を対象とする海洋リテラシー調査から考える海洋教育の課題（丹羽淑博）／わが
国の「海水浴場」と「ライフセーバー」に関する法的考察（小山隆彦）／沿岸域の総合管理
の可能性についての一考察 —沖縄県読谷村の事例から、地域の協働による総合的管理の可
能性を探る—（加藤美奈子）／課題研究「海洋・宇宙の産学官連携方策に関する研究—海洋
の総合管理にむけて」中間とりまとめ（日本海洋政策学会課題研究グループ）／課題研究「新
旧海洋基本計画及び各年次報告に関する研究」中間報告（日本海洋政策学会課題研究グルー
プ）

◎参加費：年次大会（学会員 3,000 円、非会員 5,000 円。学生会員無料、同非会員 1,000 円）、
交流・懇親会（一般 5,000 円、学生 2,000 円）

○小宮山前会長の海洋立国推進功労者表彰受賞祝賀会を 10/24（月）に開催

この度、日本海洋政策学会前会長である小宮山宏氏が海洋基本計画改定や海洋政策等での
永年にわたる功績により「第9回海洋立国推進功労者表彰（内閣総理大臣賞）」を受賞され
たので、去る10月24日（月）に、虎の門のレストラン ROYAL GARDEN COMON にて祝賀会
を開催した。

今回の受賞は、「海洋立国日本の推進に関する特別な功績」分野の「普及啓発・公益増進」
部門での授与で、功績事項としては、海洋基本法に基づく海洋基本計画改定等に貢献、海洋
政策学会の初代会長として海洋政策発展に寄与、海洋立国推進功労者表彰選考委員長として
尽力、の三項目が掲げられている。

当日は、武見敬三・参議院議員、高木義明・衆議院議員もお祝いに駆けつけていただき、
ご祝辞をいただいたほか、前原誠司・衆議院議員ほかからのお祝いのメッセージも届けられ
た。本学会の役員、常設委員会委員、会員等をはじめ、小宮山氏の海洋関連活動ゆかりの方々
が参集して、お祝い会を和気あいあいのうちに開催した。



○10/4「海洋・宇宙連携の今後の在り方」特別セミナー、盛会裡に開催

本学会の「海洋・宇宙連携」課題研究グループは、Marine Technology Society (MTS) 日本支部と共催で、去る10月4日(火)午後、東大・小柴ホールで標記の特別セミナーを開催した。当日は、他にいくつか海洋関係シンポジウム等と重なっていたが、約150名と多数の聴衆が参加した。

基調講演では、まず日本について古庄幸一・総海洋政策本部参与が、米国のAIS・Ocean Observation・MDAについてMTS次期会長のDonna Kocak女史、欧州のCOPERNICUSプロジェクトについて欧州委員会日本代表部一等書記官のSara Zennaro-Atre女史が、それぞれ講演。パネル討議では、初めて、内閣官房総合海洋政策本部事務局と内閣府宇宙開発戦略推進事務局の参事官が並んで登壇いただき、それぞれの施策の取組状況をショートプレゼンしていただいた。フロアからも非常に多数の発言があり活発な意見交換がなされるなど、充実した内容となり、聴講者からも好評を博した。終了後の意見交換会も約70名が参加して歓談の輪が広がった。

なお、12/3(土)の年次大会で、同課題研究の中間報告がポスター発表される。

○本学会の古庄幸一監事、秋の叙勲で瑞宝重光章を受章

11月3日(木)の文化の日に、今年の秋の叙勲の受章者が発表され、一般紙をはじめ、各メディアで報道されたが、そのなかで、本学会の監事である古庄幸一氏(元海上幕僚長)が瑞宝重光章を受章された。心からお祝いを申し上げる。

【一般情報】

●第31回参与会議、10/26(水)に開催

去る10月26日(水)午前、中央合同庁舎4号館12階の特別会議室で、第31回の総合海洋政策本部参与会議が開催され、その概要が同本部のホームページ上に掲出されている。

平成29年度海洋関連予算概算要求等について、ならびに、次期海洋基本計画についての意見交換が主な議題であった。同意見交換の論点としては、計画内容の再編成、記述の取り扱い、各省庁の施策の取り扱い、目標の設定等が示されている。

(関連サイト) <http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kaiyou/sanyo/dai31/index.html>

●10/27、IWC総会；日本の調査捕鯨制限へ決議採択、法的拘束力なし

スロベニアで開かれていた国際捕鯨委員会(IWC)の総会は27日、日本の調査捕鯨に歯止めをかけることを目指す決議を賛成多数で採択した。

同決議は、オーストラリアとニュージーランドの主導で提出され、採決では日本やノルウェー、アイスランドなど17か国が反対したのに対し、34か国が賛成、採決に必要な過半数を上回った。同決議に基づき、今後、IWCとその専門家委員会による調査捕鯨の審査の支援に当たる常設の作業部会が設置される。ただ、同決議には法的な拘束力はない。

日本の森下丈二・政府代表は決議採択後、AFPの取材に応じ、日本が従うのはあくまでIWCの設立文書である国際捕鯨取締条約（International Convention for the Regulation of Whaling）であると強調した。

（関連サイト）<https://iwc.int/iwc66>

●世界最大の海洋保護区、南極ロス海に設置へ

10月27日、オーストラリアのホバートで開かれていた「南極の海洋生物資源の保存に関する委員会（CCAMLR）」の年次会合で、自然保護を目的とした世界最大の海洋保護区を南極のロス海に設置することが決まった。同海洋保護区の設置をめぐることは、中国が昨年賛成に回ったことから、反対の立場を取るのはロシアだけとなっていたが、そのロシアが反対を撤回したことで合意に至った。

ロス海は、世界でも数少ない未開の海洋生態系が見られ、ペンギンやアザラシ、ライギョダマシ、クジラの生息地であり、また、海洋生態系や海洋の気候変動への影響に関する科学研究にとっても非常に重要な海域。新たに設置が決まった海洋保護区の面積は155万平方キロ超で、このうち112万平方キロは漁業禁止海域となる。

（関連サイト）

<https://www.ccamlr.org/en/news/2016/ccamlr-create-worlds-largest-marine-protected-area>

~~~~~  
※本メールニュースは原則として年4回以上、学会員はじめ関係方面の方々に配信しています。

※本メールは転送自由とします。直接配信希望、配信停止、ご意見やコメント等は、下記の事務局まで、ご連絡ください。

日本海洋政策学会事務局

〒105-0001 港区虎ノ門1-15-16 笹川平和財団ビル6F

（公財）笹川平和財団海洋政策研究所気付 日本海洋政策学会

TEL/FAX 03-6457-9701、e-mail アドレス：office@oceanpolicy.jp、

Website: <http://oceanpolicy.jp>

~~~~~